

コメ不足と日本の食料安全保障

キヤノングローバル戦略研究所研究主幹

山下 一仁



- *日本の農業と農村は大きく変貌した
- *“令和の米騒動”はなぜ起きたか
- *国民経済的に大間違いの減反政策
- *日本の農業を左右するJ-Aという組織
- *いまだ残る農政のアンシャン・レジーム
- *アメリカやEUでは直接支払い
- *規模拡大のメリットについて
- *輸出先として有望市場なのは中国
- *コメを軸に食料安全保障を考える
- *耕作放棄地での生産回復は可能か

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、キヤノングローバル戦略研究所、山下一仁研究主幹にお越しいただきました。先生は、東大法学部を出られて農林省に入られまして、地域振興課長、それからOECDの農業委員会でも副議長も務められ、農村振興局次長の後、このキヤノングローバル戦略研究所に移られました。2020年からは東大の公共政策大学院で客員教授として学生さんの指導にも当たられて、農業政策について教鞭も取っていらっしゃいます。

皆様ご存じのように、今年の春から夏にかけて、首都圏のスーパーの店頭から米がなくなるということが起きました。米の価格も急上昇して、令和の米騒動だということで大騒ぎに

なりました。新米が出ましたら状況が変わるとも言われておりましたが、どうも24年産米も高値の取引になっておりまして、現在もスーパーの店頭を見ますと5キログラムで3000円以上の価格がついて、1年前に比べれば3割ぐらい値段が上がったままということで、米の在庫も薄い状態が続いているようです。

この米不足、また米価格の高騰という現象をいったいどう捉えたらいいのかということ、今日はその辺を先生にじっくり伺いたいと思っております。

それでは山下先生、よろしくお願いします。

（拍手）